

## 岡本台病院

### 病院の概要

地域精神医療の基幹病院として、精神科一般診療やアルコール・薬物依存症の診療、デイ・ケアの実施をはじめ、自傷他害のおそれがある患者や休日・夜間時の精神科救急患者等の積極的な受入れに努めるとともに、精神障害者の早期の社会復帰を促進しています。また、心神喪失者等医療観察法(※)に基づく「指定入院医療機関」、「鑑定入院医療機関」及び「指定通院医療機関」として対象患者を受け入れています。

※心神喪失者等医療観察法：正式名称は「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」といい、心神喪失又は心神耗弱の状態で重大な他害行為を行った方を対象として、社会復帰を継続的に支援・促進することを目的としています。

### 平成26年度の主な取組

- ◇ 「栃木県立岡本台病院経営改革プラン[第2次]」の数値目標を達成するため、経営改善等に取り組みました。また、入院環境の改善、医療機器等の充実・強化、政策医療の推進を図りました。
- ◇ 心神喪失者等医療観察法に基づく「指定入院医療機関」となる病棟(第7病棟)については、病床利用が満床になり、手厚い専門医療の提供によって1名が処遇終了となりました。
- ◇ 病棟の保護室(6室)改修工事を実施し、転倒時の事故防止を図り、入院患者の安全性を向上させました。
- ◇ 電子カルテシステムが本格稼働(平成26年3月導入)し、病院各部門間の情報共有化によって、医療の質の向上を図りました。
- ◇ 病院運営協議会を設置(平成26年4月)しました。第1回の同協議会を開催(平成26年8月)し、外部委員から意見をいただきました。今後、病院運営に活かしていきます。
- ◇ 精神障害者地域移行・定着支援については、平成24年度から個別給付化され、市町の事業に移行されましたが、当院では長期入院患者に対して引き続き継続的な支援を行っています。
- ◇ アルコール依存症の患者さんや家族などを対象として、家族会、断酒会、ストップクラブ等の運営支援などを行いました。また、地域の要請に応じて「アルコール予防講演会」などを行いました。
- ◇ 新規外来患者の待ち時間短縮のため、予約制を導入(平成26年9月)して、患者サービスの向上に努めました。
- ◇ 開かれた病院、地域に根ざした病院づくりを目指し、岡本台病院ふれあいまつりを開催し、患者さんや関係団体等による作品展示や模擬店の出展のほか、医療相談やアルコール相談を行いました。
- ◇ 患者さんの希望を尊重した上で、薬の院外処方を推進しています。



第7病棟



平成26年10月に開催したふれあいまつり

# がんセンター

## 病院の概要

県内唯一のがん専門病院として、さまざまな領域のがん専門医と多職種のスタッフが連携して高度なチーム医療を提供しています。また、都道府県がん診療連携拠点病院(※)として県のがん医療のレベルアップに中心的な役割を担って活動しています。

※ 「がん診療連携拠点病院」とは、全国どこでも質の高いがん医療を患者に提供することを目的として、原則として2次医療圏に1カ所、厚生労働大臣から指定を受けた病院です。そのうち、「都道府県がん診療連携拠点病院」は、県内のがん医療の先導的役割を担うとともに、県内のがん診療連携拠点病院間の連携における中心的役割を担う病院が指定されます。

[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/gan\\_byoin.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/gan_byoin.html) (厚生労働省ホームページ) (外部サイトへリンク)

## 平成26年度の主な取組

### ◇ 都道府県がん診療連携拠点病院としての取組

- がん医療の均てん化を推進するために栃木県がん診療連携協議会を開催しました。
- 5大がん(肺がん、胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん)の地域連携クリティカルパス(※)を推進しています。  
※ 治療医とかかりつけ医が連携して診療にあたるためのツールで、患者さん自身が治療計画を把握するためにも役立ちます。
- 医療従事者の緩和ケアに関する知識と技術の向上を図るために緩和ケア研修会を開催しました。
- 放射線治療に従事している診療放射線技師に対して品質管理の知識と技術の向上を図るため、実際の放射線治療装置を使用した研修会を開催しました。
- 本県に特化したがん情報を県民のみなさまに提供するためのWebサイト「がん情報とちぎ」を管理運用しています。
- がん対策の立案と評価に不可欠な地域がん登録を実施しています。本県の登録精度は高い評価を受けていますが更なる向上に努めています。
- 地域医療機関との連携を強化する目的で「医療連携認定証」を発行し、連携医療機関をホームページや院内掲示板に掲示しました。地域医療機関との連携強化を図り、入院から在宅医療への切れ目のないがん診療の推進と、顔の見える連携を築くために医師向けの医療連携情報交換会を開催しました。



<医療連携 認定証>



<医療連携情報交換会>



#### ◇ がん専門病院としての取組

- 核医学検査装置をリニューアルし、最新の装置を導入しました。

核医学検査はR I 検査やアイソトープ検査とも呼ばれていて、ごく微量の放射性物質（ラジオアイソトープ：R I）を含む薬を用いて病気を診断する検査です。核医学検査は臓器の働き（機能）をとらえることができ、他の検査では分からない病気を見つけることもあります。苦痛も無く副作用も非常に少ない検査で、多くの病気の診断に利用されています。



＜最新の核医学検査装置＞

- 市民公開講座、オープンキャンパスの開催、がんセンターだよりの発行等により、県民のみなさまにがん情報を発信しました。
- 精度の高いがん検診法の確立を目指して、がんセンターの診療機能を活用した「施設検診」を実施しています。



＜オープンキャンパス＞

- 放射線治療部では、粒状の小さな放射性物質“小線源”を用いた 腔内照射を実施しています。その腔内照射室に専用CTを設置し、三次元による治療計画が可能となりました。腫瘍高線量を照射しつつ、膀胱・直腸等の正常組織に対する線量を正確に評価できることが特徴となります。



＜腔内照射専用CT装置＞

- 検査技術部では、手術マネージメントセンター開設にあたり患者さん向けに新たにパンフレットを作成し臨床検査技師による患者さんへの検査説明を開始しました。

#### ◇ 医療安全の取り組み

- 厚生労働省医療安全推進週間にあわせて、日頃、医療チームの一員として医療の安全にご協力を頂いている患者さんやご家族に向けて、職員から感謝のメッセージをお伝えしました。また、職員がより一層チームワークを高めて安全な医療を提供できるようチームワーク研修（チーム STEPPS）を開催しています。



＜医療安全推進週間企画：患者様への感謝のメッセージ＞

#### ◇ その他

- 平成26～28年の取組を整理した「栃木県立がんセンター経営改革プラン〔第2次〕」にしたがって、経営改善、経営形態の検討、地域連携ネットワークの充実等に取り組みました。

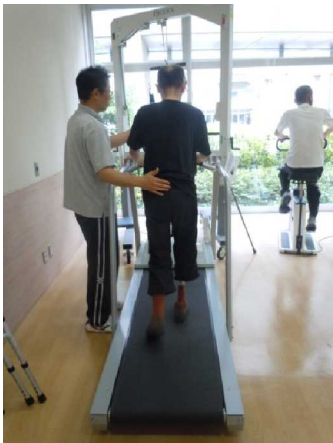
# とちぎリハビリテーションセンター

## 病院の概要

主に運動器系や神経系に障害のある乳幼児から高齢者までの幅広い年齢層の患者に対して、専門的かつ高度なリハビリテーション医療を提供するとともに、障害児(者)に対する整形外科医療や小児神経疾患全般に係る医療を提供しており、とちぎリハビリテーションセンター(※)の中核的な施設となっています。

※ 乳幼児から高齢者に至る幅広い年齢層に対応し、障害を持つ方の自立と社会参加を促進することを目的として、病院、児童福祉施設、指定障害者支援施設及び相談・判定機関等で構成する複合施設です。

## 平成26年度の主な取組



義足をつけての歩行訓練

- ◇ 「とちぎリハビリテーションセンター病院部門経営改革プラン〔第2次〕」に基づき、更なる経営改善の推進、地域連携ネットワークの充実・強化、経営形態のあり方検討等の取組を進めました。
- ◇ リハビリテーションの充実を図るため人員の確保や設備の整備を行い、回復期病棟では、土日・祝日を含めた入院患者の365日リハビリテーションを実施しています。また、平成24年度に再開した小児の整形外科手術についても、引き続き実施しています。

- ◇ 病院スタッフが持っている医療情報などを、障害のある方々を支援する地域の皆様に還元し、障害のある方々の生活の質の向上や社会参加の促進に役立てていただくため、介護や障害者支援施設関係者・行政職員等を対象に「とちりハ病院研修会」や「出前講座」を開催し、知識の普及と関係機関との連携強化を図っています。

出前講座テーマ：安全に食べるために

成人言語障害と対応方法

たかが手すり、されど手すり など



とちりハ病院研修会

「注意欠陥・多動性障害(ADHD)のある子の治療と支援に役立つセミナー」

- ◇ 脳卒中に係る県内統一の地域連携クリティカルパスに基づき、回復期医療機関として、急性期医療機関やかかりつけ医等との医療連携を図りました。さらに大腿骨近位部骨折に係る地域連携クリティカルパスの運用に取り組み、より一層の地域医療連携を進めました。